

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

令和2年度2年次の県学力調査の福岡県標準化得点をもとに令和3年度3年次の全国学力調査の標準化得点(本校平均正答数÷全国平均正答数(公立)×100)を次の数値以上にする。

国語80 数学72

3.指標に向けての取組

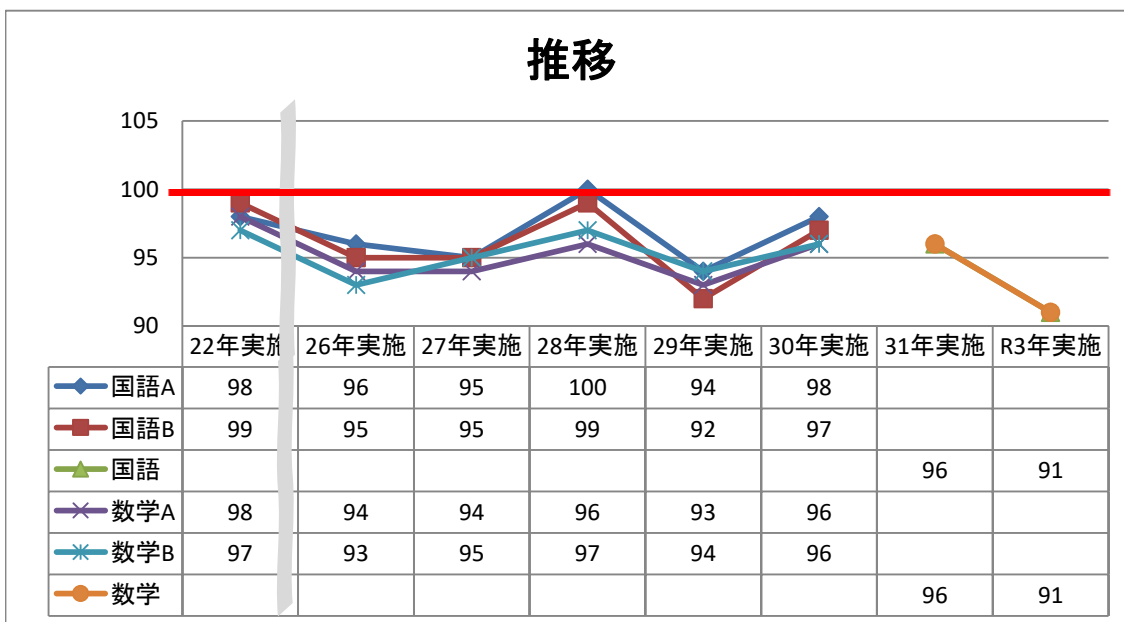
【国語】話し合い活動を授業に取り入れていく。その際、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができるよう、丁寧な表し方や実際に話すように書く活動を行っていく。また、定期考査において「話すこと・聞くこと」に関する問題を出題する。

【数学】基礎・基本の定着のために小テストをこまめに実施し、再テスト等で補充する。また、全国学テの過去問を週末課題や長期休暇中の課題として活用する。

【家庭学習】計画的な宿題(週末課題)の提示と自学ノートの取組を継続する。1年90分、2年100分、3年120分以上の家庭学習時間の確保を目指し、6割以上の生徒が達成できるよう指導し、さらに学期に1回家庭学習時間を調査し、意識づけを行う。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	91	91
嘉麻市	97	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

【国語】目標数値に対して、+11ポイント 【数学】目標数値に対して、+19ポイント

昨年度の県学力調査の福岡県標準得点をもとにした目標数値に対しては、大幅にプラスのポイントであるが、嘉麻市の平均得点及び、ここ数年の学校平均得点と比べると課題の残る結果となっている。

項目別にみても、国語、数学ともに、すべての領域において、正答率に約20%ほどの開きがある。その中で、国語については、読むことに対する値が-13.1と開きが小さく、数学については、資料の活用分野に対する値が-11.4ポイントと開きが小さい。また、無解答率についても最大30%ほどの開きがある設問もあり、粘り強く問題に取り組むことができていないと言える。

また、質問紙調査によると、「朝食を毎日食べている(-17.9ポイント)」「毎日同じくらいの時刻に寝ている(-11.3ポイント)」と基本的な生活習慣が身につけていないことがわかる。また、家庭学習時間については、「2時間以上勉強する」と答えた生徒が全体の16.7%で、全国に比べると25.1ポイント低いという結果である。それに対し、「普段1日に3時間以上、テレビゲームをする」生徒が全体の52.8%にも上り、これは全国と比べて20.5ポイント多い。

6.各学校における今後の取組

嘉麻市としての取組を受け、次の6点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランに基づく組織的な学力指導を行うために、短期スパンでのPDCAサイクルを意識し、定期考査ごとに教科部会を行う。
- C,D層に対する支援を行うために、単元毎に補充学習を行う。
- C,D層に対する支援を行うために、朝学習の取組を新規取組として、全学年で行う。その際、国語・数学・英語に重点を絞って、最低限身に付けさせたい事項の習得を目指す。
- 学力向上に向けた取組を組織的・計画的に実施するために、校外模試毎の同一学年の成績の推移に着目しながら、2週間ごとに定期的に学力向上委員会を開催し、学力向上策の評価・分析・検証・改善を行う。
- 授業改善を行うために、研究推進部を中心に稲築東中学校の授業グランドデザインの共有を図り、全教員最低1回の授業研修を行う。
- 家庭における学習基盤を整えるため、家庭学習時間の調査を進めるとともに、ノースマホーゲームデーを設定し、その効果等を各家庭に発信する。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。
- 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。